

塗装防水無料相談窓口 飯田店
長野県南信州から全国へ

あなたの笑顔の為に！

塗装防水
無料相談窓口



7つの防衛策

令和八年八月八日
技術指導員

横井豊文 著

横井建物外周理論



塗装・防水工事に、こんな不安はありませんか。

「そろそろ塗り替えが必要」と言われたけれど、本当に今すぐ工事をするべきなのか。見積書をもらっても、金額や材料の違いがよく分からない。訪問販売で屋根や外壁の傷みを指摘され、急に心配になった。

このように感じるのは、決してあなただけではありません。塗装・防水工事は、一生のうちに何度も経験するものではないため、分からなくて当然です。

まず、工事を決めなくても大丈夫です。

必要なのは、その場で契約することではありません。建物の状態、工事が必要な理由、施工範囲、費用を一つずつ確認し、ご自身とご家族が納得してから判断することです。

本書で分かること

- 訪問販売で指摘されたときの確認方法
- 見積金額だけでは分からない比較ポイント
- 屋根・外壁・防水を一緒に見る理由
- 材料名より先に確認したい下地と施工条件
- 工事中の品質を写真と記録で確かめる方法
- 契約、追加工事、保証で確認すること

専門用語を覚えるための本ではありません。分からないことを質問し、納得できる工事を選ぶための本です。

私は、塗装・防水オタクです。

ただ塗ることより、建物を守ることに夢中です。

ひび割れを見れば、その奥にある原因を考える。雨漏りを見れば、水がどこから入り、どこを通ってきたのかを考える。塗料を選ぶときも、名前や価格だけでなく、下地との相性、地域の気候、施工条件、そして次の修繕まで考えます。

気がつけば、塗装・防水の現場に32年以上携わってきました。私は、きれいに塗るだけの工事ではなく、建物を長く守る工事をしたいと考えています。

この本を書いた理由

工事を売るためではありません。お客様が必要のない工事を避け、必要な工事を正しく選び、納得して契約できる判断基準を届けるためです。

「塗る」から「守る」へ。

それが、私の仕事であり、株式会社横井の考える塗装・防水工事です。

南信州を守る城でありたい。

私たちが守りたいのは、建物だけではありません。そこに暮らす人、大切な家族、これまで築いてきた財産、そして工事後の安心です。私は、その安心を守る場所という意味で、株式会社横井を「飯田市の城」だと思っています。

塗装・防水・リフォーム業界では、不安をあおって契約を急がせる営業、必要性の低い工事、完成すると見えなくなる部分で工程を省く工事について、今も相談が寄せられています。だからこそ私たちは、飯田市・南信州の皆様を、悪質な営業や不適切な工事から守る存在でありたいと考えています。

責任施工という約束

自分たちが説明した工事に、自分たちが責任を持つ。下地処理を省略せず、材料、塗布量、乾燥時間、施工回数を確認する。心配な箇所を一つずつ潰し、工程を写真に残す。問題が起きたときも、ごまかさず原因と向き合う。

目の前の1㎡を、確実に。

人の仕事に「絶対」や「完璧」はありません。だからこそ私たちは、完璧を目指し、一工程ずつ確認を重ねます。

大きなことを言うための「城」ではありません。困ったときに思い出していただき、安心して相談できる場所であること。株式会社横井は、飯田市・南信州の皆様にとって、そのような城でありたいと考えています。

塗装防水無料相談窓口をつくった理由

塗装・防水・リフォームは、一般のお客様にとって分かりにくいことがたくさんあります。工事が本当に必要なのか、見積金額は適正なのか、訪問販売で指摘された内容は本当なのか。正しい知識を知らないまま契約し、必要以上の費用を支払った方や、工事後に悲しい思いをした方のお話を、私は何度も聞いてきました。

塗装・防水の知識がないことは、お客様の責任ではありません。一生のうちに何度も経験する工事ではないから、分からなくて当然です。だから私は、工事を契約するためだけの営業窓口ではなく、まず安心して話を聞ける場所が必要だと考えました。

知らなかったことで、悲しい思いをしてほしくない。

それが、「塗装防水無料相談窓口 飯田店」をつくった理由です。

まだ工事をすると決めていなくても構いません。他社の見積書について分からないこと、訪問販売で指摘されたこと、屋根や外壁、雨漏りについて心配なことをご相談ください。

必要な工事は、必要な理由とともにお伝えする。急ぐ必要のない工事は、経過を見てもよいと正直にお伝えする。分からないことを分からないままにせず、納得して判断していただく。

株式会社横井と塗装防水無料相談窓口 飯田店は、地域の皆様にとって「住まいの守り神」のような存在を目指して活動しています。

「横井」という名前とロゴに込めた覚悟



株式会社横井のロゴマークは、私が自分で考え、自分でデザインしました。会社を立ち上げるとき、私はあえて自分の苗字である「横井」を会社名にしました。

「横井」という名前は、逃げないために掲げた名前です。

自分の名前を掲げれば、無責任な工事はできない。問題が起きても逃げられない。一つひとつの仕事で信用を積み重ねていくしかない。それは、自分の弱さに対する戒めでもありました。

匠の技術と、人としての誠実さ。

中央の赤い「Y」とカタカナの「コ」を組み合わせた形には、技術を磨き続ける「匠」の姿を込めました。右側の黒い小文字「i」は、チェック記号ではなく「人」を表します。確かな技術と正しい知識に、人としての誠実さが重なって初めて、株式会社横井の目指す仕事が生れます。

名前から逃げない。仕事から逃げない。お客様との約束から逃げない。このロゴは、私たちの技術の証であり、責任から逃げないという約束です。

はじめに

住まいを守るために、まず正しい判断基準を。

戸建て住宅の塗装・防水工事は、何度も経験する買い物ではありません。見積書を見ても、工事範囲、材料、工程、施工品質の違いが分かりにくく、不安を感じる方も少なくありません。

本書は、塗装・防水の現場に32年以上携わってきた経験をもとに、契約前に確認していただきたいポイントを一般のお客様向けにまとめた実践書です。工事を増やすためではなく、不要な工事を減らし、必要な工事を正しく選ぶために作りました。

本書の目的

不安をあおる説明だけで契約せず、見積金額だけでなく工事内容を比較し、写真と根拠を確認して、納得できる工事を選ぶことです。

執筆・監修

技術指導員 横井 豊文／株式会社横井 代表取締役
長野県飯田市を拠点に、戸建て住宅の屋根・外壁・防水・雨漏り修繕・建物診断に対応。屋根、外壁、シーリング、防水、雨樋などを別々ではなく、雨水の流れと建物の動きでつながる「一つの生命体」として捉え、建物全体を確認します。

本書をお読みになる前に

本書は、戸建て住宅の塗装・防水・改修に関する一般的な知識と著者の現場経験を紹介するものです。個別の建物に対する診断、設計、構造安全性、工事仕様、法令判断、保険金・補助金の適用、性能、耐久年数を保証するものではありません。

実際の工事では、現地の状態、設計図書、メーカー仕様、関係法令、地域条件および専門家の判断をご確認ください。材料や工法の耐久性は、下地、施工品質、気候、立地、維持管理によって変わります。

石綿（アスベスト）事前調査

建築物の解体・改修工事では、工事規模にかかわらず石綿含有建材の有無について事前調査が必要です。一定規模以上の工事では行政への報告も必要です。既存塗膜の研磨・除去、外壁材の切断等を行う場合も、関係法令に基づき確認します。

目次

第1章 失敗する人・成功する人	第7章 施工品質を見える化する
第2章 契約前に確認する7つの防衛策	第8章 契約・支払い・保証
第3章 見積書の比較と施工範囲	第9章 信頼できる業者を見つける
第4章 戸建て住宅を全体診断する	第10章 工事後から始まる建物保全
第5章 屋根・外壁・防水の判断基準	第11章 株式会社横井の戸建て施工事例
第6章 材料ではなく組み合わせで選ぶ	資料編 チェックリスト・建物カルテ・FAQ

第1章 失敗する人・成功する人

トラブルの多くは、工事が始まる前の判断から始まっています。

珍しくない「失敗した」と思う瞬間

築年数が進むと、訪問営業や電話営業が増えることがあります。「壁にひび割れがある」「このままでは雨漏りする」と不安をあおられ、その場で契約した結果、必要性や施工範囲を十分に確認できなかったという相談は珍しくありません。

工事後に多い後悔は、「もっと比較すればよかった」「写真で確認すればよかった」「追加工事の条件を聞いていなかった」「保証の対象外を知らなかった」というものです。価格だけでなく、判断の根拠と記録が必要です。

成功している人の共通点

- 家が大きく傷む前に、小さな変化を点検している
- 見積金額だけでなく、施工範囲と工程を比べている
- 劣化の症状と原因を分けて説明してもらっている
- 資格・許可・施工体制を確認している
- 工事中的の写真と使用材料の記録を受け取っている
- 工事後の点検と次回修繕予算まで考えている

分からないまま、
契約しない。

本当の自己防衛

専門家になることではありません。分からないことを質問し、説明と書面が一致しているかを確認できれば、失敗の可能性を大きく下げられます。

2つの『7つの防衛策』について

本書は契約前の確認事項をまとめた実践編です。

有料本編は建物の一生と長期保全計画を考える専門書です。

第2章 契約前に確認する7つの防衛策

値段だけで決めず、「何を・なぜ・どのように施工するか」を確認します。

防衛策1 その場で契約しない

突然の訪問や電話で「今すぐ必要」「今日なら安い」と言われても、家族に相談し、複数の説明を比較します。

防衛策2 症状と原因を確認する

ひび割れ、剥がれ、雨漏りなど、見えている症状だけでなく原因と再発防止策を確認します。

防衛策3 見積書の範囲をそろえる

面積、下地処理、塗装回数、付帯部、防水、シーリング、足場、廃材処分まで比較条件をそろえます。

防衛策4 材料名だけで選ばない

既存下地、地域環境、工法、施工条件、予算、今後の居住年数を組み合わせて判断します。

防衛策5 施工品質を記録で確認する

工程写真、使用数量、乾燥時間、必要な膜厚・温湿度管理、完成検査を確認します。

防衛策6 契約・保証・追加工事を確認する

支払条件、保証範囲、免責、追加工事の事前承認、工期変更の扱いを契約前に確認します。

防衛策7 工事後も相談できる人を選ぶ

完成して終わりではなく、点検、部分補修、次回改修予算まで相談できる会社かを見ます。

防衛策1 その場で契約しない

訪問販売によるリフォーム工事や点検商法については、現在も全国の消費生活センター等へ多数の相談が寄せられています。契約を急がせる言葉は、建物の緊急性を証明するものではありません。

- 屋根へ勝手に上らせない
- 指摘箇所は写真で見せてもらう
- 工事が必要な理由と期限を聞く
- 家族または第三者へ相談する
- 会社名、住所、建設業許可、担当者を確認する
- 契約書面を持ち帰って読む

困ったときは

消費者ホットライン188へ相談できます。訪問販売等では、法定書面を受け取った日から原則8日間のクーリング・オフが認められる場合があります。個別の状況は消費生活センター等へご確認ください。

防衛策2 症状と原因を確認する

塗る前に、「なぜ傷んだのか」を確認します。

外壁のひび割れ	建物の動き、下地、目地、凍害、雨水侵入
塗膜の剥がれ	下地処理不足、含水、旧塗膜、材料相性
室内の雨染み	屋根、外壁、サッシ、笠木、防水端末、配管
ベランダの水たまり	勾配、ドレン詰まり、排水能力、防水層
鉄部の再発錆	錆除去不足、塩分、水分、膜厚、構造的滞水

原因が確定できない場合は、「可能性」と「追加調査の必要性」を区別して説明できる業者を選びます。

第3章 見積書の比較と施工範囲

「一式」の金額ではなく、数量・工程・範囲をそろえて比べます。

見積書で最低限確認したい項目

- 足場の面積・養生・昇降設備
- 洗浄方法と洗浄範囲
- 下地処理・ひび割れ・欠損補修
- 屋根・外壁の実塗装面積
- 下塗り・中塗り・上塗りの材料名と回数
- シーリングの撤去、打ち替え、増し打ちの区分
- 雨樋、破風、軒天、雨戸、水切り等の付帯部
- ベランダ・バルコニー防水
- 廃材処分、清掃、近隣対応
- 追加工事が発生する条件

塗り面積の算出根拠

延べ床面積や坪数だけでは、実際の外壁面積は決まりません。立面図や現地実測から外壁面積を求め、窓などの開口部を差し引きます。ただし、細かな役物や凹凸の扱いは会社によって異なるため、算出方法も確認します。

見積金額ではなく、 工事範囲を比べる。

同じ条件で比較する

A社はシーリング・付帯部を含み、B社は別途なら、総額だけの比較はできません。比較表を作り、含まれる工事と含まれない工事をそろえます。

見積書と現場を一致させる

調査した人と施工する人の情報共有

見積担当者が現場を細かく調査しても、その内容が職長や施工者へ伝わらなければ品質は安定しません。調査写真、補修位置、仕様書、注意箇所を着工前に共有しているか確認します。

書面へ残したい内容

- 施工しない場所と除外範囲
- 色・艶・仕上がり見本
- 雨天・低温・強風時の施工判断
- 近隣車両や植栽の養生
- 室外機・給湯器・換気口周辺の扱い
- 工事中に不具合が見つかった場合の連絡方法
- 変更・追加は施主承認後に行うこと

ドローン調査について

屋根へ上らず高所を確認できる利点がありますが、飛行場所や方法によって必要な許可・承認が異なります。ドローンだけで下地強度や含水状態まで断定せず、必要に応じて近接確認を組み合わせます。